

平成21年度高鍋町事務事業評価表

◎事務事業の概要

事務事業名	町民の日記念式典事業				開始年度	昭和41年	
基本目標	町民参画のまちづくり				終了年度		
担当課(局)	総務課	担当係	行政係	記入者	増田 浩史	評価者	間 省二
20年度決算	374	千円	21年度予算	320	千円	事業の実施方法	<input type="checkbox"/> 補助 <input checked="" type="checkbox"/> 単独
20年度人件費	719 千円		21年度人件費	728 千円		事業従事者数	0.10 人 0.10 人

◎事務事業の目的・内容

事業の目的	昭和13年10月1日に旧高鍋町と旧上江村が合併し大高鍋発展の礎をつくった意義のある日を町民の日と定め、式典を挙行し、高鍋町民であることの誇りを再確認する。
事業の内容	町行政功労者への表彰、感謝状の授与

◎成果指標と活動指標

成果指標	成果指標名	何を狙い、どのような成果が得られたのか
	# 参加者数	より多くの町民に参加してもらい、町民の日の意義を認識してもらう。
	2	
	3	
活動指標	活動指標名	どれほどの活動をしたのか、事業の手法、手順等を詳細に
	# 被表彰者選考委員会	被表彰候補者のうちから、被表彰者を選考
	2	
	3	

◎達成状況

指標名		単位	19年度	20年度	21年度
成果指標	参加者数	目標値	700	200	検討中
		実績値	600	150	
		達成率	85.7%	75.0%	
	0	目標値	人・団体		
		実績値			
		達成率	%	#DIV/0!	#DIV/0!
活動指標	被表彰者選考委員会	目標値	1	1	1
		実績値	1	1	
		達成率	100.0%	100.0%	
	0	目標値			
		実績値			
		達成率	%	#DIV/0!	#DIV/0!
0	目標値				
	実績値				
	達成率	%	#DIV/0!	#DIV/0!	

◎事務事業の評価

妥当性 (必要性)	◎目的からして町が行うべきか ◎同様の事業を他課・他団体で行っていないか ◎事業廃止による影響があるのか	町が行うべき事業である。 事業を廃止することの影響はそれほど大きくはないが、「町民の日」を記念し式典を行うことにより町民が本町に対する誇りを再確認するという事業目的を考慮すると、事業の形態にもよるが、その必要性は十分に高い。
有効性	◎目標に対して成果は得られているか ◎成果向上のための改善余地があるか	町民が事業目的のとおり高鍋町民であることの誇りを再確認しているかの客観的検証は困難であることから、成果が得られているかの見極めがしづらい状況にある。 開催日や事業の規模及び内容など改善する余地はあるが、今後、「町民の日」を町としてどのように捉えていくかを決め、その方向性に応じ見直しを進める必要がある。
効率性	◎活動量の効果は上がっているか ◎経費や時間の削減余地があるか	事業の実施に当たっては、効率性を重視しながらその取組を進めているところである。 現行の事業内容では、経費や時間などの削減余地はあまり発生しない。(事業規模を縮小するのであれば削減余地は十分あるが、削減により事業の目的が達成できない恐れもあるため、効率性と事業効果の均衡を保つことが重要であると考えられる。)
協働性	◎町民との協働の可能性があるか(ボランティア・NPO等)	どのような事業内容かにもよるが、協働による実施も可能であると考えられる。

事務事業名	町民の日記念式典事業	担当課(局)	総務課
-------	------------	--------	-----

◎総合評価(今後の方向性を含む)

総合評価	◎担当の方針に対する評価者としての所見 ◎統括者として、どのように事業を進めるべきと考えているか、等	町民に10月1日は町民の日である意識掲揚に努め、式典をどのような形で行なうか検討しなければならない。	今後の方向性				
			拡充				
			現状維持				
			縮小		○		
			廃止				
			廃止	縮小	現状維持	拡充	
			コスト				

事務事業評価委員会 評価欄	事業	縮小	◎「10月1日」という日をずらすことはせず、5年、10年といった節目に盛大に行っていくことが良い。
	コスト	縮小	